

# Oh!Me

インターネットと連動した  
【滋賀生活情報紙】



## 新毎日新聞

この情報紙は「滋賀ガイド」と提携しています

滋賀ガイド [www.gaido.jp](http://www.gaido.jp)

vol.563・5月14日号 毎週木曜発行 **4面にプレゼント情報!**

●Oh!Me編集室/株式会社ヤマブラ:近江八幡市桜宮町294 TEL0748-34-8872 FAX0748-34-8927  
●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603 発行部数:100,000部  
●発行/毎日新聞大阪本社開発宣伝部:大阪市北区梅田3-4-5



素敵な人

## 好きな鉄道写真を仕事に 夢を支えた熱い心

子どものころから鉄道写真が好きで、31歳のとき大手電機メーカーを退職して鉄道写真家になる夢に賭けた清水薫さん。好きなことを仕事にする——、誰もが憧れるがその道は険しい。清水さんの夢を支えたのは、諦めない熱い心だった。

しみず かおる  
鉄道写真家 **清水 薫さん**  
(草津市在住・51歳)

### 技術者から31歳で転身

小さいころ、父に連れられてよく電車を見に行き、鉄道が大好きになった清水さん。小学校6年生のときに、親にねだってカメラを買ってもらった。中学生になると、さらに性能のいいカメラが欲しくなり、新聞配達をして手に入れた。この気持ちは高校生になっても冷めず、鉄道車両の設計者になろうと決心し、大学は工学部へ進学した。ところが、卒業当時、国鉄民営化のあおりを受けJRや車両メーカーには採用がなく、仕方なく大手電機メーカーに就職。半導体機械の設計をすることになった。当時、半導体産業は時代の最先端。残業や休日出勤が常態化し、毎日心身ともに疲れ果てた。たまの休みに鉄道写真を撮りに出掛けると気持ちが癒やされた。雑誌「鉄道ファン」などで綺麗な風景を走る電車の写真に刺激を受けた。自らも鉄道写真

の投稿を学生時代から重ねていたが、「好きな写真撮影で生計を立てたい」という思いがエスカレートし、とうとう鉄道写真を撮ることを決心した。

### 厳しい現実

頑張って貯金をし、31歳で退職。鉄道カメラマンとして歩き始めた。複数の雑誌社から仕事をもらってなんとか生活できるかなと考えていたが現実には甘くなかった。一向に仕事は増えず、年収100万円台の厳しい生活が何年も続いた。しかし、これに屈することなく、大阪ビジュアルアーツ専門学校の夜間部で写真の腕を磨く一方、こつこつ

撮り続けてストックを充実させていった。

### 湖西線の風景テーマに

雑誌向けの写真撮影とともに清水さん自らのテーマとして取り組んできたのが「湖西線とその周りの風景」の作品作り。時間さえあれば湖西線の沿線へ撮影に出掛けた。湖西線は琵琶湖に近く、周辺の自然も豊かだが、全線が高架の上を走るため構図が単調になりがちになる欠点もあった。沿線を駆け回り、撮影場所を探した。撮影ポイントを探すだけでなく、電車の進行方向に対する太陽の位



▲ポストカードセット「JR湖西線 美しい琵琶湖と自然の中を」から521系電車 湖西線マキノ〜永原間(清水の桜)

置と日の出、日の入りの時刻、日中の太陽の高さなどを克明に照合した。晴れた日の夕暮れは空気が澄み、絶好のチャンスだが、撮影できるのはたったの

数分。同じ場所で何日もかけて撮影した。特に「中秋の名月と電車」をテーマに絞ったときは、何年にもわたる撮影になった。

スランプに陥っていた1999年の冬、雪の中で撮影していて転倒し、2カ月間入院した。「泣きっ面に蜂」だったが、この入院生活がスランプ脱出の契機となった。ベッドで横になっていると心の中に写真の構図が次々と湧いてきたという。新たな着想による写真も加え、撮りためた湖西線の風景写真を中心に2001年、個展を開催。これが高く評価されて仕事が徐々に増えていった。数年前に結婚し、最近は雑誌やカレンダーなどの撮影で全国を飛び回る一方、写真教室や専門学校の講師として、これまで磨いてきた技術や経験を教えている。また、ポストカードセットや卓上カレンダーなどオリジナルの商品も徐々に充実したいと考えているという。

(取材・峰山)

### 清水薫写真展 春夏秋冬「鉄道の季節」

- 【東京展】5/22(金)～28(木)  
■場所:富士フィルムフォトサロン東京スペース1
  - 【名古屋展】7/3(金)～9(木)  
■場所:富士フィルムフォトサロン名古屋スペース1・2
  - 【大阪展】10/16(金)～22(木)  
■場所:富士フィルムフォトサロン大阪スペース1
- ★清水薫撮影のポストカードセット 取り扱い場所  
〔長浜鉄道スクエア、たかしま・まるごと百貨店、琵琶湖周航の歌資料館(高島市)〕  
※商品取扱店舗募集※

清水薫 ●メール:ks.photo@ares.eonet.ne.jp  
HP <http://www.eonet.ne.jp/~ks-photo/>  
FB <https://www.facebook.com/ks.photo.office>

滋賀生活情報紙【Oh!Me】はお近くの毎日新聞販売店からお届けしています。毎日新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル **0120-468-012**

美人画、役者絵、風景画を代表的な主題として認識することの多い浮世絵ですが、子どもめぐる江戸文化のあり方を伝えてくれる作品も少なくありません。本展覧会では、公文教育研究会所蔵の子ども浮世絵コレクションを中心に約300点を展示します。

1 鈴木春信「夏姿 母と子」明和4～5年(1767～68) ※前期展示 2 勝川春章「正一位三徳稲荷大明神」天明(1781～89) ※後期展示 3 歌川豊国「風流てらこ吉書はじめいこの図(3枚続きのうち左)」享和4年(1804) ※後期展示

4.18(土)から6.7(日)まで 観覧料: 一般1,000(800)円 高大生650(500)円 小中生450(350)円 ※( )内は、前売および20名以上の団体料金

THE MUSEUM OF MODERN ART, SHIGA 滋賀県立近代美術館

〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1(文化ゾーン内) Tel.077-543-2111 <http://www.shiga-kinbi.jp/> 開館時間:9時30分～17時(入館は16時30分) 休館日:月曜日(リピーター割引があります)

## 三井寺 千団子祭り

5/16(土) 17(日)

千団子祭りは、子供の無事成長、安産、厄払い等の祈願に多くの参拝者が訪れ、植木苗市、露店で賑わいを見せます。

●千団子すくすく人形 お子様の無事成長の願いが込められています。(詳しくは下記HPへ)

5/16(土) 午前10時から御開帳法要執行 重要文化財 鬼子母善神御開帳

西国第14番札所 総本山 三井寺

三井寺 検索

滋賀県大津市園城寺町246 TEL.077-522-2238